

【備えあれば憂いなし】

～終末への備え～

【聖書箇所】マタイ 24 章・25 章(抜粋)

24:3 イエスがオリーブ山ですわっておられると、弟子たちが、ひそかにみもとに来て言った。「お話してください。いつ、そのようなことが起こるのでしょうか。あなたの来られる時や世の終わりには、どんな前兆があるのでしょうか。」24:4 そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「人に惑わされないように気をつけなさい。24:5 わたしの名を名のる者が大ぜい現れ、『私こそキリストだ』と言って、多くの人を惑わすでしょう。24:6 また、戦争のことや、戦争のうわさを聞くでしょうが、気をつけて、あわてないようにしなさい。これらは必ず起こることです。しかし、終わりが来たのではありません。24:7 民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、方々にききんと地震が起こります。24:8 しかし、そのようなことはみな、産みの苦しみの初めなのです。24:9 そのとき、人々は、あなたがたを苦しいめに会わせ、殺します。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての国の人々に憎まれます。24:10 また、そのときは、人々が大ぜいつまづき、互いに裏切り、憎み合います。24:11 また、にせ預言者が多く起こって、多くの人々を惑わします。24:12 不法がはびこるので、多くの人たちの愛は冷たくなります。24:13 しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われます。24:14 この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかしされ、それから、終わりの日が来ます。・・・

24:35 この天地は滅び去ります。しかし、わたしのことばは決して滅びることがありません。24:36 ただし、その日、その時がいつであるかは、だれも知りません。天の御使いたちも子も知りません。ただ父だけが知っておられます。・・・

24:42 だから、目をさましていなさい。あなたがたは、自分の主がいつ来られるか、知らないからです。24:43 しかし、このことは知っておきなさい。家の主人は、どろぼうが夜の何時に来ると知っていたら、目を見張っていたでしょうし、また、おめおめと自分の家に押し入れられはしなかったでしょう。24:44 だから、あなたがたも用心していなさい。なぜなら、人の子は、思いがけない時に来ますから。・・・

25:31 人の子が、その栄光を帯びて、すべての御使いたちを伴って来るとき、人の子はその栄光の位に着きます。25:32 そして、すべての国々の民が、その御前に集められます。彼は、羊飼いが羊と山羊とを分けるように、彼らをよく分け、25:33 羊を自分の右に、山羊を左に置きます。25:34 そうして、王は、その右にいる者たちに言います。『さあ、わたしの父に祝福された人たち。世の初めから、あなたがたのために備えられた御国を継ぎなさい。25:35 あなたがたは、わたしが空腹であったとき、わたしに食べる物を与え、わたしが渴いていたとき、わたしに飲ませ、わたしが旅人であったとき、わたしに宿を貸し、25:36 わたしが裸のとき、わたしに着る物を与え、わたしが病気をしたとき、わたしを見舞い、わたしが牢にいたとき、わたしをたずねてくれたからです。』25:37 すると、その正しい人たちは、答えて言います。『主よ。いつ、私たちは、あなたが空腹なのを見て、食べる物を差し上げ、渴いておられるのを見て、飲ませてあげましたか。25:38 いつ、あなたが旅をしておられるときに、泊まらせてあげ、裸なのを見て、着る物を差し上げましたか。25:39 また、いつ、私たちは、あなたのご病気やあなたが牢におられるのを見て、おたずねしましたか。』25:40 すると、王は彼らに答えて言います。『まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。』

25:41 それから、王はまた、その左にいる者たちに言います。『のろわれた者ども。わたしから離れて、悪魔とその使いたちのために用意された永遠の火に入れ。25:42 おまえたちは、わたしが空腹であったとき、食べる物をくれず、渴いていたときにも飲ませず、25:43 わたしが旅人であったときにも泊まらせず、裸であったときにも着る物をくれず、病気のときや牢にいたときにもたずねてくれなかった。』25:44 そのとき、彼らも答えて言います。『主よ。いつ、私たちは、あなたが空腹であり、渴き、旅をし、裸であり、病気をし、牢におられるのを見て、お世話をしなかったのでしょうか。』25:45 すると、王は彼らに答えて言います。『まことに、おまえたちに告げます。おまえたちが、この最も小さい者たちのひとりにしなかったのは、わたしにしなかったのです。』25:46 こうして、この人たちは永遠の刑罰に入り、正しい人たちは永遠のいのちに入ります。』

●はじめに

『備えあれば、憂いなし』と言われる。私達は、聖書を通して、終末に対する備えを学ぼう。

●今日の聖書箇所を理解する為に・・・マタイ 24～25 章全体について・・・

①終末時の前兆について、教えている。(24:1～28)

戦争、ききん、地震、人間関係の崩壊、クリスチャンへの迫害、偽キリスト。

②主イエスは、もう一度地上に来られ、歴史は終末を迎える。(24:29～31)

③終末の日時は、誰も分からない。又、その日には、自分はクリスチャンだと称していても、真に主イエスを信じ、その教えに従って、

日ごろから、神の前に正しく生きる者と、そうでない者に決定的な違いが起こる事を、様々な譬え話などを用いて繰り返し教え、警告している。

だからこそ、私達は、いつ終末を迎えても良いような備えをするように、生き方をするように聖書は、繰り返し教えている。(24:32～25:46)

1:終末への備えを与えて下さった「主イエス」を伝えよう

歴史だけでなく、誰の上にも、必ず死という終末を迎える時が来る。

誰もその事を防ぐ事はできない。いつ、その日、その時を迎えるのか、誰にも分からない。そして、終末/永遠への備えが出来ていた者と、そうでなかった者との間に決定的な違いが起こる事を聖書は教えている。

主イエスは、私達がいつ終末を迎えても良いように、私達の罪を赦し、永遠のいのち(永遠に神と共に、神の守りと祝福の中で過ごす)を与える為に、十字架でいのちを与え、3日目に復活して下さった。

主イエスを信じる私達は、永遠のいのちが与えられ、既に終末・永遠への備えができていた事を神に感謝しよう。又、多くの方に主イエスの事を伝えよう。

●聖書の約束 ・ヨハネ3:16

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは、御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

2:終末への備えとして、私達は、「愛」に生きるものとなろう

人生の終末を迎えるにあたり、多くの人が後悔する事の 1 つに、家族、友人に対して愛の心で接してこなかった事があげられる。何故なら、私達の人生の中心的目的の 1 つは、『隣人を愛する』事だからである。

それゆえ、私達は愛に生きるとき、人生の充足感・喜びを感じるのである。

しかし、時には、私達が愛の心で尽くしても、感謝もされず、無駄のように感じる事もある。しかし、主イエスは、私達がなした、どのような小さな愛の業をも覚え、報いて下さると約束されている。

愛に生きる生き方こそ、この地上においても、永遠の世界に入っても、最も幸いな生き方なのである。私達は、いつ終末を迎えても良いように、日ごとに愛に生きるものとなろう。

●聖書の約束 マルコ 12:29～31

イエスは答えられた。「一番たいせつなのはこれです。『イスラエルよ。聞け。われらの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』

次にはこれです。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』この二つより大事な命令は、ほかにありません。」

【チャレンジしよう】

いつ、終末を迎えても良いように、あなたは、誰に愛の心で仕え、福音を伝えたいですか。
